

育児期の母親における就労形態と将来展望の関連

ーキャリア選択における3つの分岐点から考えるー

教育デザインコース 家政領域
飯田麻衣子

1. 研究の目的

女性は、結婚・妊娠・出産等により、仕事を続けるのか辞めるのか、働き方を変えるのかなどのキャリア選択を迫られることが多い。近年、女性の就業率は上昇しており、育児だけではなく働きたいと思う母親が増えているが、母親がいつ、どのような理由で働き方を選択するのかについてはわかっていない。そこで本研究では、フルタイム勤務、パートタイム勤務、専業主婦の就労形態別に、妊娠・出産時、出産1～3年後、子育てがひと段落する将来の時点の3つの分岐点における母親のキャリア選択の実態を明らかにしていく。

2. 研究方法

横浜市内の私立幼稚園（認定こども園併設）1園と私立保育園4園に通う3～6歳児の母親290名を対象に表1の内容で質問紙調査を行った。対象となった母親の就労形態はフルタイム33.8%、パートタイム21.0%、専業主婦39.0%、その他6.2%だった。

表1. 育児期の母親に対する質問紙調査の内容

<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的属性 ・ 妊娠時から将来のキャリアに関する4項目 ①妊娠・出産当時の就労希望に関して ②①の希望は「叶った」のか「叶わなかった」のかまたその理由 ③子育てがひと段落する時期はいつか、子育てがひと段落したらどのような就労形態でいるのが理想か ④③の希望は「叶いそう」か「叶わなそう」か、またその理由
--

3. 結果と考察

妊娠・出産当時の就労形態の希望について、妊娠前と同じ就労形態を希望していたのは、フルタイムでは

73.0%、パートタイムでは25.0%、専業主婦では28.3%だった。また、出産1～3年後に、妊娠・出産当時の就労形態の希望が「叶わなかった」割合は、フルタイム19.2%、パートタイム39.7%、専業主婦30.6%でパートタイムが最も希望が叶っていなかった。その理由として、「子どもと一緒にいる時間が減り、ストレスがたまり、仕方なくフルタイムからパートタイムに切り替えた」「パートの給与と保育料のバランスが取れず退職した」などが挙げられた。また、子育てがひと段落した将来の時点での就労希望については、図1のように、フルタイムだけでなくパートタイムと専業主婦も、“将来は働く”ことを希望する割合が8割以上と多かった。また、すべての就労形態で7割以上がその希望が「叶っている」と予想していた。

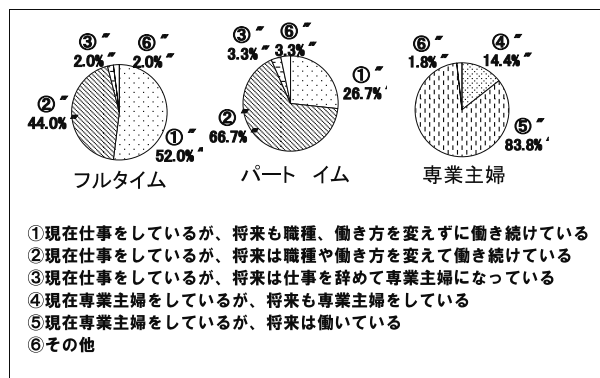


図1, 子育てがひと段落する頃の就労形態について

このことから、現在の就労形態にかかわらず、多くの母親が、子育てがひと段落したら働くことによる自己実現を希望している、という実態が明らかになった。

4. 今後の課題

今後は、このような母親のキャリア選択に母親の心理的要因がどのような影響を与えているのかを明らかにしていく必要がある。